

6月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2011. 06. No.39

郁文館夢学園の学生と一緒に… ～汗を流した収穫の喜び～



子どもたち全員でお出迎え



早朝まだ暗い中、国旗掲揚



野菜の皮むきのお手伝い

皆さんこんにちは。日本はもう暖かくなってきた頃でしょうか。カンボジアでは日中の気温が36度から37度と、毎日猛暑が続いています。

さて、今回のDream通信では、郁文館夢学園の学生との交流、園での農作業の様子、祝日の連休を利用してのお手伝いイベントについてお伝えします。

郁文館生が来園！

年1回の郁文館夢学園のカンボジアボランティア研修も、今年で3回目を迎えました。『今年も、日本の学生の皆様が来るよ！』と伝えると、子どもたちは1ヶ月以上も前からとても嬉しそうにしていました。そして5月の3、4日の2日間、今回は総勢24名の郁文館生が研修に参加してくれました。

3日は、夕方から農作業、子どもたちとの交流。4日は早朝5時から園の子どもたちと一緒に園内の掃除を行い、5時半から園の前で国旗掲揚、国歌斉唱、と普段通りの生活を体験してもらいました。午前中、学校に行ったり、補習があったりと、園の子どもがいない時間に、郁文館生には農作業をしてもらいました。そして汗をかいた後は、郁文館生からのプレゼントとして、(日本風)カレーの調理を行いました。午前中の授業が終わった子が続々とお手伝いに駆けつけ、皆で作ったカレーは格別に美味しかったです。

美味しいカレー作り！

慣れない手つきにハラハラする場面もありましたが、調理担当職員の手伝いもあり、約100人分のカレーの準備が2時間程で出来上がりました。毎年恒例の行事となっているため、調理担当職員はすっかり日本のカレーの作り方を覚えており、野菜をどう切ったらいいのか、1m近くある大きな鍋の使い方などを皆に教えていました。子どもたちも野菜や肉を切ったりお手伝いをしたりして、言葉は通じなくても郁文館生との共同作業を楽しんでいました。



初めて薪をのこぎりで切る郁文館生

郁文館生と農作業

2日間にわたり、郁文館生に農作業等を手伝ってもらいました。午前と午後の日差しの強い中、薪割りや園内農園の水遣り、畑の耕作、落ち葉集め等を、体中汗びっしょりになりながら行いました。今までやったことが無い、という郁文館生に子どもたちが身振り手振りでクワの使い方や、野菜と雑草の見分け方を教えていました。2日間手伝ってもらったおかげで、畑の畝も広がり、雑草だらけの畑もすっかりきれいになりました。



耕運機を動かす子どもの様子

園内の畑の様子

園では週に4回、農作業の時間を設けています。先日はコンポンチュナン州のSAJFarmのスタッフが耕運機を運んで来てくれました。そして将来農業をやりたいと言う子どもが、スタッフに耕運機の使い方を教えてもらい、園内の畑を耕しました。「まっすぐ!」と叱られつつも、緊張した面持ちで一所懸命耕耘機を動かしていました。

園内の野菜作りは、カンボジア人職員が中心になって作業し、子どもたちを指導しています。今、たくさんの野菜が収穫の時期を迎えています。空芯菜、なす、トマト、オクラ、ゴーヤ、ささげ、など種類も様々です。時折暑すぎるために実が小さく腐ってしまうこともあります。自分たちで作った野菜はとても美味しいです。園で取れた野菜は子どもたちも調理を手伝い、皆で食べます。将来、農園で収穫した野菜で、子どもたちの食事が全てまかなえるようにするのが目標です。また、子どもたちには園で農作業を覚え、将来農業によっても家族を養っていけるように、生きる力を身に付けてほしいと思います。

また、園のある土地は、元果樹園だったこともあり、果樹が豊富です。今はマンゴーとジャックフルーツが食べ頃です。収穫した際には、子どもたち全員で夕食後のデザートとして美味しく頂きます。



畑でささげの収穫

市場へお手伝い

5月中旬、国王誕生日のため5連休がありました。そこで大きい子どもを中心に、市場へ食材買出しのお手伝いのイベントを行いました。子どもたちは自転車で市場へ向かい、調理担当職員に教わりながら値段交渉をしたり、良い野菜を選んだり、お手伝いしました。園では子どもたちにお金を持たせていないため、普段はお金に触れる機会のない子どもたちも、今回のイベントを通して、毎日の食事のありがたさやお金の大切さについて学びました。



良いきゅうりを見極め中!